

平成24年度 杉並区事務事業評価表

事務事業名		青少年委員活動		款	7	項	5	目	1	事業	6	整理番号	529	
担当部課名		教育委員会事務局学校支援課		係名	家庭・地域教育担当		連絡先電話番号	1648		昨年度整理番号	543			
(平成23年度担当部課名)		教育委員会事務局社会教育スポーツ課		予算事業区分		既定事業								
事業開始		平成	▼	11	年度		<input type="checkbox"/> 主要事業							
事務事業の概要	対象		<input checked="" type="checkbox"/> 個人	<input type="checkbox"/> 世帯	<input checked="" type="checkbox"/> 団体	<input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 内部管理	根拠法令等						
									(1) 杉並区青少年委員に関する規則					
									(2) 地域教育連絡協議会共催分担金支給要綱					
	事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか)		青少年の団体活動や地域での体験活動の支援を行う青少年委員を委嘱し、家庭・地域・学校の連携を深め、地域の教育力を高める。						活動指標名(式)					
								(1) 子ども地域活動促進事業延べ参加者数						
								(2) 定例会及び研修会開催回数						
活動内容 (事務事業の内容、やり方、手順)		○各中学校区ごとに組織された地域教育連絡協議会において、地域教育懇談事業及び子ども地域活動促進事業実施の推進役として活動する。 ○青少年委員が、必要な知識を習得し情報の共有化を深めるため、定例会と研修会を開催する。						成果指標 ※(代)=適当な指標がない場合の代替指標						
								成果指標名(1)		子ども地域活動促進事業への参加率				
								算定式・指標の説明等		延べ参加者÷区内児童生徒数(4月1日現在)×100				
								成果指標名(2)		定例会及び研修会への出席率				
								算定式・指標の説明等		(定例会及び研修会出席延べ人数÷開催回数)÷委員数×100				
区分		単位	21年度		22年度		23年度		24年度		計画(目標値)に対する23年度の達成率 %			
			実績		計画		実績		計画(目標値)		実績			
指標	活動指標(1)		①	人	12130	15000	9499	15000	10891	15000	72.6			
	活動指標(2)		②	回	10	11	10	11	10	11	90.9			
	成果指標(1)		③	%	51	65	40	65	45	65	69.2			
	成果指標(2)		④	%	83	90	89	90	87	100	96.7			
総事業費・コスト把握	事業費		⑤	千円	6,032	6,141	5,696	6,063	5,418	6,063	23年度予算執行率% 89.4			
	(内)投資的経費等		⑥	千円	0	0	0	0	0	0	特記事項 組織改正により、平成24年度から「青少年委員活動」事業が旧社会教育スポーツ課から学校支援課へ事業移管となった。			
	(内)委託費		⑦	千円	41	50	48	42	40	42				
	職員数(常勤 非常勤)		⑧	人	1.30 0.30	1.20 0.30	1.30 0.30	1.00 0.00	1.10 0.00	1.20 0.50				
	人件費	(内)常勤職員分(超勤分含)	⑨	千円	11,543	10,704	11,596	8,900	9,790	10,680				
		(内)非常勤職員分	⑩	千円	838	885	885	0	0	1,540				
	総事業費⑤+⑨+⑩		⑪	千円	18,413	17,730	18,177	14,963	15,208	18,283				
	単位あたりコスト(⑪-⑥)÷①		⑫	円	1,518	1,182	1,914	998	1,396	1,219				
	財源	受益者負担分		⑬	千円	0	0	0	0	0			0	
		国からの補助金等		⑭	千円	0	0	0	0	0			0	
		都からの補助金等		⑮	千円	0	0	0	0	0			0	
		その他の補助金等		⑯	千円	0	0	0	0	0			0	
		特定財源計⑬+⑭+⑮+⑯		⑰	千円	0	0	0	0	0			0	
差引:一般財源⑪-⑰		⑱	千円	18,413	17,730	18,177	14,963	15,208	18,283					
受益者負担比率⑬÷⑪		⑲	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					

平成24年度 杉並区事務事業評価表

整理番号 529

23年度の事業実施状況	(1) 主な取組み	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		委員報酬	40	人	3,866
		地域教育連絡協議会開催のための分担金	21	校区	1,176
		運営事務費(通信費、消耗品など)			376
		その他 ()			0
(2) 事業実績	<p>定例会7回、研修会3回の開催、「青少年委員だより」や「実践集録」の発行、委員の自主組織である青少年委員協議会への助言等により、家庭・地域・学校をつなぐ役割を果たせるよう委員活動の支援をしています。</p> <p>地域教育連絡協議会は、各中学校区単位の懇談事業を43回開催し、延1,599名の参加がありました。子ども地域活動促進事業は、各中学校区内の実行委員会と共催し、延10,891人の参加がありました。</p>				

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	<p>昭和28年度に都の制度として発足しました。</p> <p>当初は、勤労青少年の余暇活動支援などが中心でしたが、昭和58年、地域教育懇談会が開始されて以降は、小中学生の学校外教育を活動の中心としながら、家庭・地域・学校をつなぐパイプ役という位置づけとなっています。平成18年の教育基本法改正では、「学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力」の条文が追加され、その役割への期待が高まっています。</p>
	事業に対する住民の意見(事業に対する期待・要望・苦情など)	<p>青少年育成委員会や児童館事業に加えて、学校支援本部への関与なども増えてきて、かかわることの負担感や、それぞれの場面での青少年委員の位置づけや役割が不明確との意見があります。</p> <p>一方、担当青少年委員未定の小学校区では、児童館などから委員の協力が必要との声が寄せられるなど、地域においては青少年委員が不可欠な存在となっています。</p>
	今後の予測	<p>学校の統廃合にあわせて、委員の担当学校区や定数の見直しが必要となります。</p> <p>教育ビジョン2012では、家庭・地域・学校の「かかわり」と「つながり」を重視した教育をさらに進めいくため、地域教育推進協議会のモデル設置等を含め、地域の要となる青少年委員への期待と役割は、ますます大きくなります。</p>
評価と課題	<p>地域教育連絡協議会の事務局運営や他団体への委員派遣など、地域の核となり青少年の健全育成に大きな役割を担っています。一方、地域の教育力が問われる中、引き続き職務の重要性についての認識を持ってその役割を担ってもらうことが必要であり、定例会や研修会の充実が求められています。</p>	

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業の方向性	○ 拡 充	● 現状維持	○ 縮 小	○ 廃 止
		II 事業の改善	○ 事業内容の変更		● 実施方法の変更	
	<p>第7期東京都生涯学習審議会第二次答申(平成20年12月)では、社会全体で教育力を向上させるため、「地域教育」という視点が欠かせないとされました。定例会、研修会では、社会や区の現代的な教育問題を積極的に取り入れた運営を行います。また、教育ビジョン2012の取組みの方向「家庭・地域・学校をつなぐを重視した、共に支える教育を進めます」、にあわせ組織改正が行われたなかで、青少年委員の位置づけを地域によりわかりやすく提示していきます。</p>					

特記事項	
------	--

平成24年度 杉並区事務事業評価表

事務事業名	社会参加支援	款	7	項	5	目	1	事業	7	整理番号	530						
担当部課名	教育委員会事務局生涯学習推進課	係名	社会教育センター		連絡先電話番号	4712		昨年度整理番号	544								
(平成23年度担当部課名)		教育委員会事務局社会教育スポーツ課						予算事業区分	既定事業								
事務事業の概要	事業開始	昭和	▼	44	年度							<input type="checkbox"/> 主要事業					
	対象	<input checked="" type="checkbox"/> 個人	<input checked="" type="checkbox"/> 世帯	<input type="checkbox"/> 団体	<input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 内部管理	根拠法令等		(1) 社会教育法第3条、第5条 (2) 杉並区済美日曜教室実施要綱、にほんご教室実施要綱								
	①義務教育終了後の知的障害者②区内在住、在勤、在学の外国人③こころの問題等をかかえた青年						活動指標名(式)										
	事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか) 障害のある方や日本語の習得が必要な外国人等が、自立して社会参加できるようにする。						(1) 済美日曜教室延参加者数 (2) しゃべり場延参加者数										
活動内容 (事務事業の内容、やり方、手順) ○済美日曜教室 通常講座、近郊へ出かける遠足等の課外講座を実施 ○にほんご教室 区内団体の協力で、年3期、各期レベル別に5コース設定し実施 ○青年期の社会適応力の向上 「すぎなみしゃべり場」(フリースペース)の開催や講座を開催						成果指標		※(代)=適当な指標がない場合の代替指標									
						成果指標名(1)		済美日曜教室参加率									
						算定式・指標の説明等		済美日曜教室延参加者数÷済美日曜教室延登録者数									
						成果指標名(2)		しゃべり場1回あたりの参加者数									
						算定式・指標の説明等		しゃべり場延参加者数÷実施回数									
区分		単位	21年度		22年度		23年度		24年度		計画(目標値)に対する23年度の達成率 %						
			実績	計画	実績	計画(目標値)	実績	計画									
指標	活動指標(1)	①	人	891	1,400	808	900	746	900	82.9							
	活動指標(2)	②	人	346	300	209	300	278	300	92.7							
	成果指標(1)	③	%	60.0	70.0	63.0	70.0	58.5	70.0	83.6							
	成果指標(2)	④	人	8	7	5	7	6	10	84.4							
総事業費・コスト把握	事業費	⑤	千円	5,560	7,981	4,976	6,738	4,728	8,241	23年度予算執行率%	70.2						
	(内)投資的経費等	⑥	千円	0	0	0	0	0	0	特記事項 ○予算執行残の理由は、①東日本大震災による済美日曜教室春の遠足・夏の宿泊中止による残 ②ボランティア減少による謝礼金の残等です。							
	(内)委託費	⑦	千円	358	207	202	507	502	1,707								
	職員数(常勤 非常勤)	⑧	人	2.30	0.80	2.00	0.80	2.30	0.80			1.80	1.10	2.00	1.10	1.60	1.10
	人件費	(内)常勤職員分(超勤分含)	⑨	千円	20,422	17,840	20,516	16,020	17,800			14,240					
		(内)非常勤職員分	⑩	千円	2,234	2,360	2,360	3,388	3,388			3,388					
	総事業費⑤+⑨+⑩	⑪	千円	28,216	28,181	27,852	26,146	25,916	25,869								
	単位あたりコスト(⑪-⑥)÷①	⑫	円	31,668	20,129	34,470	29,051	34,740	28,743								
	財源	受益者負担分	⑬	千円	375	587	369	546	85			406					
		国からの補助金等	⑭	千円	0	0	0	0	0			0					
		都からの補助金等	⑮	千円	0	0	0	0	0			0					
		その他の補助金等	⑯	千円	0	0	0	0	0			0					
		特定財源計⑬+⑭+⑮+⑯	⑰	千円	375	587	369	546	85			406					
差引:一般財源⑰-⑬		⑱	千円	27,841	27,594	27,483	25,600	25,831	25,463								
受益者負担比率⑬÷⑪	⑲	%	1.3	2.1	1.3	2.1	0.3	1.6									

平成24年度 杉並区事務事業評価表

整理番号 530

23年度の事業実施状況	(1) 主な取組み	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		済美日曜教室(通常講座11回、野外活動3回)	85	人	2,469
		にほんご教室	57	回	1,000
		青年期の社会適応力の向上(しゃべり場、親向け講座、意見交換会等)	278	人	1,259
		その他 ()			0
	(2) 事業実績	①済美日曜教室では、年15回の講座を開催しました。東日本大震災により、遠足・宿泊は中止、4～7月までの講座は午前中だけの開催となりました。②にほんご教室は、東日本大震災の影響で4月は中止しましたが、3期5コース述べ57回を開催しました。③青年期の社会適応力の向上事業では、ひきこもりの青年を対象としたフリースペースを47回(毎週火曜、夜間、4月は東日本大震災のため昼間に開催)、本人向け5回連続のコミュニケーション講座、家族向け講座1回、関係団体の意見交換会等を実施しました。			

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	障害者の通所系サービス利用者数 950人(平成18年10月)→1,423人(平成23年3月) グループホーム等利用者数 129人(平成18年10月)→191人(平成23年3月) 全国のひきこもり人口 70万人(内閣府推定 平成23年)
	事業に対する住民の意見(事業に対する期待・要望・苦情など)	○済美日曜教室に対する期待は、参加者アンケートでは「特に必要」が90%と高くなっています。また、休日も家族と過ごす割合が高く、日曜日に家族外の人と交流のできる事業への期待は大きなものとなっています。 ○しゃべり場参加者へのアンケートでは、フリースペースに全員が大きな期待を寄せています。
	今後の予測	済美日曜教室は、現在のボランティアの高齢化等により、ボランティアの漸減が続くと予測されます。にほんご教室は、世界的不況の中の円高等と国際化の中で、外国人の増加が予測され、参加者は増加します。ひきこもり問題は、不況による若者の就職難等の中で、緩やかな増加が予測されます。
	評価と課題	済美日曜教室は、法改正等で障害者本人の個別支援計画の作成が求められる中で、休日の「豊かな人間形成の取組」(要綱第1条)への期待に応じて事業の充実を図ってきました。しかし一方で、経験のあるボランティアが減少し、事業存続の危機的状況を招きつつあります。事業を担えるボランティア体制確立のため、抜本的対策を講じる必要があります。 ひきこもり支援は、参加者が抱える複雑・繊細な課題に対応し、より専門的な支援を行なえる体制の構築が求められています。

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業の方向性	<input type="radio"/> 拡 充 <input type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 縮 小 <input checked="" type="radio"/> 廃 止
		II 事業の改善	<input type="radio"/> 事業内容の変更 <input checked="" type="radio"/> 実施方法の変更
		○済美日曜教室は、参加者のニーズに合わせてプログラムの細分化等を行なっていきます。また、講座の安定的な運営のために「ボランティア養成講座」等を行ない、新たなボランティアを育成していきます。 ○ひきこもり支援は、より専門的な支援を行なっていくために、公募型プロポーザル方式による事業の運営委託を行います。	

特記事項	
------	--

平成24年度 杉並区事務事業評価表

事務事業名		社会教育センター運営		款	7	項	5	目	1	事業	8	整理番号	531			
担当部課名		教育委員会事務局生涯学習推進課		係名	社会教育センター		連絡先電話番号	4712		昨年度整理番号	545					
(平成23年度担当部課名)		教育委員会事務局社会教育スポーツ課						予算事業区分	既定事業							
事務事業の概要	事業開始	平成	▼	1	年度									<input type="checkbox"/> 主要事業		
	対象	<input checked="" type="checkbox"/> 個人	<input type="checkbox"/> 世帯	<input checked="" type="checkbox"/> 団体	<input checked="" type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 内部管理	一般区民、自主活動団体、企業		根拠法令等	(1) 杉並区立社会教育センター条例 (2) 杉並区社会教育事業推進委員会設置要綱						
	事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか)	○社会教育センター施設は、社会教育の実践の場として広く区民等の利用拡大に努める。 ○区民や団体が、身近な地域で、生涯を通じて社会とのつながりを持ち続け、自発的な学習活動の実践につながるように、社会教育事業推進会議の活動等を展開する。						活動指標名(式)	(1) 施設利用回数 (2) 社会教育事業推進委員の人数							
	活動内容 (事務事業の内容、やり方、手順)	○施設の予約は、窓口、携帯、インターネットによる方法で受け付けている。 ○社会教育事業推進委員会(愛称:車座委員会)を設置し、事業を推進する方策について、区民の参画を得て協議・実践・調査・研究等を行う。 ○地域における区民の自発的な各種学習活動を支援する。						成果指標	※(代)=適当な指標がない場合の代替指標							
		成果指標名(1)	稼働率		算定式・指標の説明等		施設利用回数÷施設利用可能回数									
		成果指標名(2)	定例会議における社会教育事業推進委員の出席率		算定式・指標の説明等		出席者の延べ人数÷(社会教育事業推進委員数×12回)									
区分		単位	21年度		22年度		23年度		24年度		計画(目標値)に対する23年度の達成率 %					
			実績		計画		実績		計画(目標値)		実績					
指標	活動指標(1)	①	回	5,191	8,606	5,351	8,606	5,684	8,606	66.0						
	活動指標(2)	②	人	12	12	12	12	11	10	91.7						
	成果指標(1)	③	%	60.0	100.0	62.0	100.0	66.0	100.0	66.0						
	成果指標(2)	④	%	77.0	80.0	80.0	80.0	72.0	80.0	90.0						
総事業費・コスト把握	事業費	⑤	千円	6,021	7,068	5,427	7,470	5,309	7,061	23年度予算執行率% 71.1						
	(内)投資的経費等	⑥	千円	0	0	0	0	0	0	特記事項 予算執行残の理由は、①地域課からの執行委任の残、②社会教育事業推進委員謝礼、託児謝礼の残等です。						
	(内)委託費	⑦	千円	509	609	506	589	531	589							
	職員数(常勤 非常勤)	⑧	人	3.32	0.80	3.10	0.80	3.19	0.80				2.40	0.80	2.50	0.80
	人件費	(内)常勤職員分(超勤分含)	⑨	千円	29,478	27,652	28,455	21,360	22,250				19,580			
		(内)非常勤職員分	⑩	千円	2,234	2,360	2,360	2,464	2,464				2,464			
	総事業費⑤+⑨+⑩	⑪	千円	37,733	37,080	36,242	31,294	30,023	29,105							
	単位あたりコスト(⑪-⑥)÷①	⑫	円	7,269	4,309	6,773	3,636	5,282	3,382							
	財源	受益者負担分	⑬	千円	0	0	0	0	0				0			
		国からの補助金等	⑭	千円	0	0	0	0	0				0			
		都からの補助金等	⑮	千円	0	0	0	0	0				0			
		その他の補助金等	⑯	千円	0	0	0	0	0				0			
特定財源計⑬+⑭+⑮+⑯		⑰	千円	0	0	0	0	0	0							
差引:一般財源⑪-⑰		⑱	千円	37,733	37,080	36,242	31,294	30,023	29,105							
受益者負担比率⑬÷⑪	⑲	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0								

平成24年度 杉並区事務事業評価表

整理番号 531

23年度の事業実施状況	(1) 主な取組み	内 容	規模	単位	事業費(千円)
				社会教育センター運営経費(消耗品、備品)	
		社会教育事業推進組織委員等謝礼金			425
		社会教育事業推進組織運営事務費			64
		通信運搬費等(電話料金他)			322
		その他()			0
	(2) 事業実績	社会教育事業推進委員会 定例会議開催(計13回) ※車座トーク「アフター3.11～いま、KIZUKERU 絆」と「食育ミュージカル～高校生の思いが地域を動かす」、社会教育セミナー「哲学café@すぎなみ」の開催につながりました。			

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	施設使用率 平均約60%(平成元年度～平成23年度) 区民意向調査における調査結果(地域の講習会や教育支援活動への参加意向) 15年度 43.2% → 18年度 42.8% 区民アンケート(協働の地域社会づくりについての考えに対する参加意向) 22年度 8割以上
	事業に対する住民の意見(事業に対する期待・要望・苦情など)	社会教育事業推進委員からは「活動領域の違う人とつながることで視野が広がる」「地域課題を一つ取り上げても議論が深まり、次につながる発想が得られる」といった声があります。また、車座委員会と協働で実施した事業の参加者や、議事録(ホームページ掲載)を見た方などから、車座委員会への関心の声寄せられています。
	今後の予測	景気の低迷や東日本大震災の影響などにより、「豊かさ」の価値観が経済的なものだけではなく、「つながり」や「絆」といった人と人との関係性にも傾いていることから、区民の身近な地域づくりに対する参加・参画意欲がより高まることが予測されます。
	評価と課題	社会教育事業推進委員会については、応募資格等の見直しを行った結果、22・23年度委員からは地域活動の実践者が委員になりました。その結果、定例会議での話し合いが活性化し、区民需要の高い事業開催へと繋がり、新たな地域活動の立ち上げにも寄与しました。一方で、それぞれの地域活動等が多忙なため、委員会としての取組みが充分ではなく、運営や活動に課題を残しました。今後も、区民の地域づくりへの具体的な行動につなげる仕掛けや働きかけを検証していく必要があります。

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業の方向性	<input type="radio"/> 拡 充	<input checked="" type="radio"/> 現状維持	<input type="radio"/> 縮 小	<input type="radio"/> 廃 止
		II 事業の改善	<input type="radio"/> 事業内容の変更	<input checked="" type="radio"/> 実施方法の変更		
		豊かな地域づくりのためには、区民一人ひとりがそれぞれの役割を見出し、地域や社会の課題や問題にあたる必要があります。地域の実情を踏まえて、区民の参画方策をより工夫していくことが求められています。こうしたことから、社会教育事業推進委員会においても、社会教育行政に留まらず、NPOやボランティア等で活躍する個人のネットワークや情報を活用しながら、幅広い議論と実践ができる活動をより一層推進していきます。				

特記事項	
------	--

平成24年度 杉並区事務事業評価表

整理番号 532

23年度の事業実施状況	(1) 主な取組み	内 容	規 模	単 位	事業費(千円)
		大学公開講座共催分担金	13	講座	1,505
		杉並区総合文化祭分担金			4,000
		文化団体連合会補助金	1	団体	350
		ユネスコ活動分担金等	1	団体	778
		その他（職員旅費）			8
	(2) 事業実績	<p>(1) 総合文化祭は、9月30日から11月3日にかけて、展示部門8種目、大会部門15種目、美術作品展5種目を開催しました。11月1日から3日は区民文化の日として、公募による一般区民の参加を受けました。なお、節電のため、夜間時間帯での開催は自粛し、その一方、東日本大震災の募金活動を総合文化祭期間を超えて実施しました。</p> <p>(2) 大学公開講座は、区内6大学中、5大学が13講座(47講義)を開催、1404名が参加しました。講座により20歳代から60歳未満の就労年齢の区民の参加が得られました。</p>			

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	杉並区総合文化祭は、当初4団体から発足、平成21年度以降現在までは31団体 区内大学公開講座実施対象校数 昭和60年 4大学 →平成5年度 5大学 →平成13年度 6大学(区内の全大学で実施しています。)
	事業に対する住民の意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	(1) 総合文化祭の区民文化の日のステージ出演者から、プログラムの順番が良い条件で聴衆に聞いてもらえたとの意見がありました。「発表の場」が得られて良かったとの意見も多数ありました。(2) 大学公開講座については、各大学とも特色のある講座を実施し、リピーターも多く好評でした。学校事務局からは、感性の豊かな18歳未満の区民を対象とした美術講座の開催が重要との意見がありました。(3) ユネスコ事業のギャラリーツアー(美術館、文化遺産見学)では、応募者が多く好評でした。
	今後の予測	社会教育団体等との協働事業は、多様な教育文化芸術に触れる機会を区民に提供できることから、関係部署との連携と情報の共有化を進めることで新しい区民層の掘り起こしが期待できます。また、知識の提供者としてのみならず、地域活性化の担い手として機能が期待されます。
	評価と課題	<p>○文化団体連合会の事業は、教育と文化の両分野に及びます。区長部局の文化行政との連携のみならず、教育分野内部での連携も重要であり、「区民による区民のための総合文化祭」という視点で、区全体の情報の共有化と連携の推進を図っていく必要があります。</p> <p>○大学公開講座は、地域課題などを取り上げた講座の開設を検討してもらうために、さらなるに関連部署との連携の推進が必要と考えます。</p>

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業の方向性	○ 拡 充	● 現状維持	○ 縮 小	○ 廃 止
		II 事業の改善	● 事業内容の変更	○ 実施方法の変更		
		<p>(1) 杉並区総合文化祭は、区民の要望に応じていくために、今後とも関係部署との情報の共有化と連携の推進を図りながら文化団体の育成や文化祭のあり方を検討しながら進めていきます。</p> <p>(2) 大学公開講座については、大学連携担当部署等との情報の共有化と連携を推進しながら進めていきます。</p>				

特記事項	
------	--

平成24年度 杉並区事務事業評価表

事務事業名		成人学習支援		款	7	項	5	目	1	事業	10	整理番号	533		
担当部課名		教育委員会事務局生涯学習推進課		係名	社会教育センター		連絡先電話番号	4712		昨年度整理番号	547				
(平成23年度担当部課名)		教育委員会事務局社会教育スポーツ課						予算事業区分	既定事業						
事務事業の概要	事業開始	平成	▼	1	年度									<input type="checkbox"/> 主要事業	
	対象	<input checked="" type="checkbox"/> 個人	<input type="checkbox"/> 世帯	<input checked="" type="checkbox"/> 団体	<input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 内部管理	根拠法令等		(1) 社会教育法 第3条・第5条 (2) 杉並区立社会教育センター条例						
	一般区民 家庭学級企画運営団体							活動指標名(式)		(1) すきなみ大人塾(昼・夜コース、公開講座)延べ参加者数 (2) 家庭学級開催団体数					
	事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか)	多世代の地域参加を促進するとともに、自らの学びの成果を発信し次代に伝えていく力を育みます。						成果指標		※(代)=適当な指標がない場合の代替指標					
活動内容 (事務事業の内容、やり方、手順)	○地域とのかかわりが薄い若者や、勤労男性等を対象に地域の課題を自ら考える機会となる講座運営を行う。 ○地域社会の担い手を育む学習の場として、現代的課題の解決や、コーディネート力を培う高度な講座を開催する。 ○家庭と地域の人と資源の豊かな関係づくりを目指すため、地域団体が企画運営する家庭学級を共催、援助する。						成果指標名(1)		大人塾の年間講座出席率						
							算定式・指標の説明等		大人塾年間出席者実数÷年間大人塾参加者延べ数						
							成果指標名(2)		家庭学級開催率						
							算定式・指標の説明等		家庭学級開催団体数÷家庭学級開催計画数						
区分		単位	21年度		22年度		23年度				24年度	計画(目標値)に対する23年度の達成率 %			
			実績		計画		計画(目標値)		実績		計画				
指標	活動指標(1)	①	人	1,004	1,200	1,007	1,200	829	1,200	69.1					
	活動指標(2)	②	団体	31	44	30	30	21	30	70.0					
	成果指標(1)	③	%	83.0	70.0	84.0	75.0	69.0	70.0	92.0					
	成果指標(2)	④	%	70.5	100.0	68.0	100.0	70.0	100.0	70.0					
総事業費・コスト把握	事業費	⑤	千円	5,726	6,716	4,800	6,259	4,442	6,008	23年度予算執行率%	71.0				
	(内)投資的経費等	⑥	千円	0	0	0	0	0	0	特記事項 予算執行残の理由は、大人塾及び区民企画講座の講師謝礼、託児謝礼の残及び家庭教育分担金申請実績による残等です。 「家庭教育」は組織改正により、平成24年度から学校支援課へ事業移管しました。					
	(内)委託費	⑦	千円	340	375	353	358	357	318						
	職員数(常勤 非常勤)	⑧	人	2.35 1.60	1.96 1.60	2.34 1.60	2.20 1.60	2.40 1.60	3.10 2.10						
	人件費	(内)常勤職員分(超勤分含)	⑨	千円	20,866	17,483	20,873	19,580	21,360			27,590			
		(内)非常勤職員分	⑩	千円	4,469	4,720	4,720	4,928	4,928			6,468			
	総事業費⑤+⑨+⑩	⑪	千円	31,061	28,919	30,393	30,767	30,730	40,066						
	単位あたりコスト(⑪-⑥)÷①	⑫	円	30,937	24,099	30,182	25,639	37,069	33,388						
	財源	受益者負担分	⑬	千円	0	0	0	0	0			0			
		国からの補助金等	⑭	千円	0	0	0	0	0			0			
		都からの補助金等	⑮	千円	0	0	0	0	0			0			
		その他の補助金等	⑯	千円	0	0	0	0	0			0			
		特定財源計⑬+⑭+⑮+⑯	⑰	千円	0	0	0	0	0			0			
差引:一般財源⑪-⑰		⑱	千円	31,061	28,919	30,393	30,767	30,730	40,066						
受益者負担比率⑬÷⑪	⑲	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0							

平成24年度 杉並区事務事業評価表

整理番号 533

23年度の事業実施状況	(1) 主な取組み	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		すぎなみ大人塾	2	コース	2,696
	家庭教育	21	団体	1,282	
	区民企画講座	1	コース	75	
	社会教育セミナー	1	講座	389	
	その他 ()			0	
	(2) 事業実績	すぎなみ大人塾 年間延出席者 829名 大人塾まつり 参加者約2,000名 活動記録集の発行 350部 区民企画講座 企画運営委員9名 講座数5 参加者32名 社会教育セミナー 受講生20名(応募者37名)			

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	内 容
		区民意向調査における調査結果(地域の講習会や教育支援活動への参加意向) 15年度 43.2% → 18年度 42.8% 区民アンケート(協働の地域社会づくりについての考えに対する参加意向) 23年度 8割以上
	事業に対する住民の意見(事業に対する期待・要望・苦情など)	参加者からは、「同世代でもそれぞれ意見や思いが異なり、それをまとめていく過程において学ぶところが多かった」「個人ではなく仲間と一緒にやり遂げられたからこそ見えてきたものがあった」など、地域における他者との相互学習による学習方法が高く評価されています。
	今後の予測	東日本大震災以降、地域におけるつながりの必要性がより広く認識され、地域で行われる事業への関心はこれまで以上に高くなってきています。この傾向は、現在国が策定を進めている第2期教育振興基本計画にも色濃く反映されており、さらに高くなっていくことが想定されます。
	評価と課題	大人塾は、一年間を通じた高度な学習形態と言えますが、出席率は高く、修了生の社会教育委員への就任などから問題意識の高まりが証左されています。大人塾まつりは、修了生のつながりと活動の発表の場として有効な手段ですが、一般の祭りとの差別化を図るための工夫が必要です。

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業の方向性	<input type="radio"/> 拡 充 <input checked="" type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 縮 小 <input type="radio"/> 廃 止
		II 事業の改善	<input checked="" type="radio"/> 事業内容の変更 <input type="radio"/> 実施方法の変更
		区民企画講座は、これまでの成果と課題を活かし、地域社会の担い手として重要な青年層及びアクティブシニアの参画を得ながら、事業運営を検討していきます。 大人塾は、事業開始後7年を経過したことから、引き続き改善を図っていきます。ただし、こうした取り組みは、具体的成果が目に見える形では直ぐには現れず、客観的評価を得られるまで時間がかかることから、地域単位での取り組みによりそうした成果の確認に寄与するものです。 ○コース設定について 引き続きコース数の検討や短期の地域分散型講座の実施を検討します。それにより、区内各地域での受講生の裾野の拡大を図るとともに、地域課題発見型の講座色を鮮明にします。 ○認知度の向上について 大人塾まつり(成果発表事業)での集客を強化すると共に、他のイベントへの参加などで大人塾の卒業生の活動を広く区民に周知していきます。また、地域コムの効率的利用やメーリングリストを積極的に活用し、活動のネットワークの拡充を図っていきます。さらに、冊子発行なども合わせて、総合的・計画的に進めていくことで、大人塾の認知度を高めていきます。 ○修了生の活用について 大人塾を修了した500名以上の受講生を、自治会組織や地域運営協議会、商店街、学校などで、コーディネーターやファシリテーター的役割を持つ人材として、地域活用を図っていく方策を考えます。 「家庭教育」は、平成24年度から学校支援課に事業移管をし、家庭・地域・学校の連携をより重視した家庭教育支援の取り組みを行っていきます。	

特記事項	内 容

平成24年度 杉並区事務事業評価表

事務事業名		郷土博物館の運営管理		款	7	項	5	目	1	事業	11	整理番号	534	
担当部課名		教育委員会事務局生涯学習推進課		係名	郷土博物館		連絡先電話番号	3317-0841		昨年度整理番号	548			
(平成23年度担当部課名)		教育委員会事務局郷土博物館							予算事業区分	既定事業				
事務事業の概要	事業開始	平成	▼	元	年度									<input type="checkbox"/> 主要事業
	対象	<input checked="" type="checkbox"/> 個人	<input checked="" type="checkbox"/> 世帯	<input checked="" type="checkbox"/> 団体	<input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 内部管理	根拠法令等		(1) 博物館法 (2) 杉並区立郷土博物館条例					
	事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか)	○歴史的・文化的資料の収集保存・調査研究活動を行い、展示等各種事業を通じて、利用者に杉並の歴史文化を知ってもらおうとともに、区民の杉並への理解と関心を深め愛着心を高める。						活動指標名(式)		(1) 企画展・講座・教室等事業実施回数 (2) 収蔵資料総数				
	活動内容 (事務事業の内容、やり方、手順)	○資料の収集・保管、調査・研究、寄贈・寄託 ○展示、子供博物館教室、講演会等各種行事の周知・実施 ○学校教育等への支援・連携 ○研究紀要・年報等の発行						成果指標		※(代)=適当な指標がない場合の代替指標				
				成果指標名(1)		事業参加者数		算定式・指標の説明等						
				成果指標名(2)		アンケート結果		算定式・指標の説明等		満足を3、普通を2、不満を1とした平均点				
区分		単位	21年度		22年度		23年度		24年度		計画(目標値)に対する23年度の達成率 %			
			実績		計画		実績		計画(目標値)		実績		計画	
指標	活動指標(1)	①	回	48	45	47	45	50	45	111.1				
	活動指標(2)	②	点	136,377	137,400	137,040	138,040	137,683	138,683	99.7				
	成果指標(1)	③	人	51,276	55,000	52,599	55,000	44,636	50,000	81.2				
	成果指標(2)	④	点	2.56	2.80	2.65	2.80	2.68	2.80	95.7				
総事業費・コスト把握	事業費	⑤	千円	14,158	17,137	10,662	15,146	10,936	18,164	23年度予算執行率% 72.2				
	(内)投資的経費等	⑥	千円	370	400	0	400	185	400	特記事項 事業経費見直しと展示経費不用額による残です。				
	(内)委託費	⑦	千円	2,768	4,695	3,428	3,611	2,776	4,114					
	職員数(常勤 非常勤)	⑧	人	3.97 12.00	3.50 11.00	3.91 11.00	3.00 13.00	3.36 13.00	4.00 14.00					
	人件費	(内)常勤職員分(超勤分含)	⑨	千円	35,250	31,220	34,877	26,700	29,904				35,600	
		(内)非常勤職員分	⑩	千円	33,516	32,450	32,450	40,040	40,040				43,120	
	総事業費⑤+⑨+⑩	⑪	千円	82,924	80,807	77,989	81,886	80,880	96,884					
	単位あたりコスト(⑪-⑥)÷①	⑫	円	1,719,875	1,786,822	1,659,340	1,810,800	1,613,900	2,144,089					
	財源	受益者負担分	⑬	千円	2,115	1,249	1,424	1,447	1,515				1,471	
		国からの補助金等	⑭	千円	0	0	0	0	0				0	
		都からの補助金等	⑮	千円	0	0	0	0	0				0	
その他の補助金等		⑯	千円	0	0	0	0	0	0					
特定財源計(⑬+⑭+⑮+⑯)		⑰	千円	2,115	1,249	1,424	1,447	1,515	1,471					
差引:一般財源(⑰-⑬)		⑱	千円	80,809	79,558	76,565	80,439	79,365	95,413					
受益者負担比率⑬÷⑪	⑲	%	2.6	1.5	1.8	1.8	1.9	1.5						

平成24年度 杉並区事務事業評価表

整理番号 534

23年度の事業実施状況	(1) 主な取組み	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		特別展・企画展・講座・教室等の開催	50	回	7,392
	博物館事業の運営管理経費			3,135	
	郷土博物館運営協議会の開催	3	回	409	
	その他 ()			0	
	(2) 事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・特別展・企画展・講座・教室等の開催により、23,429人の来館者がありました。 ・刊行物として「炉辺閑話」(2回)、「年報・紀要」、展示図録(3回)を発行しました。 ・博物館運営協議会を3回開催しました。 			

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	平成19年4月郷土博物館分館開館 入館者数:平成元年度17,326人、平成2年度24,622人、平成10年度18,884人、平成15年度14,027人、平成20年度13,324人(本館)・12,740人(分館)、平成21年度13,155人(本館)・14,586人(分館)、平成22年度13,762人(本館)・11,460人(分館)、平成23年度14,380人(本館)・9,049人(分館)
	事業に対する住民の意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	展示・講座等開催した各種事業は、来館者から概ね高い評価を受けており、特に目立った要望・苦情等はありません。
	今後の予測	平成22年12月に策定した「協働と生涯学習支援に向けた杉並区立郷土博物館運営方針」の実現に向けて、より一層の区民参加・協働による活性化が求められます。
	評価と課題	博物館の活性化に向けて、「協働と生涯学習支援に向けた杉並区立郷土博物館運営方針」に掲げられている今後の取り組み事項について、実現可能なものから随時実施し、より充実した博物館活動を行うことができました。今後は、平成25年度以降に取り組む展示更新等の事項について、実施に向け具体的な検討を行っていく必要があります。

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業の方向性	<input type="radio"/> 拡 充	<input checked="" type="radio"/> 現状維持	<input type="radio"/> 縮 小	<input type="radio"/> 廃 止
		II 事業の改善	<input checked="" type="radio"/> 事業内容の変更	<input type="radio"/> 実施方法の変更		
		<p>「協働と生涯学習支援に向けた杉並区立郷土博物館運営方針」に掲げられている今後の取り組み事項のうち、「常設展の更新」など中長期的な取り組みが必要な課題について、計画的な実施に向けた検討を行う必要があります。また、サービスの質を確保しつつ、地域やNPOに委ねられる事業については、協働を積極的に推進していきます。</p>				

特記事項	
------	--

平成24年度 杉並区事務事業評価表

整理番号 535

23年度の事業実施状況	内容	規模	単位	事業費(千円)
		(1)主な取組み	管理運営(指定管理者)	6
	図書館サービス業務委託	4	館	180,751
	図書館資料購入・装備	13	館	205,991
	図書館システム管理(図書サービスコーナー等含む)	16	施設	126,098
	その他(情報環境の提供、ブックスタート、子供読書活動推進ほか)	66,790		
(2)事業実績	ボランティアによる見守りの協力を得、多目的室等を学校の長期休業期間中の調べ学習室として提供しました。「杉並区図書館を使った調べる学習コンクール」では、区内の子ども達から754点の応募があり、全国大会に出展した25点の作品全てが入選しました。全館で、お話会や絵本作家による参加型ワークショップ等を積極的に企画・実施したほか、中央図書館では「あかちゃんタイム」を試行し、乳幼児とその保護者へのサービスを拡充しました。			

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	昭和25年の区立図書館設置から、現在は13館が整備され、他にもサービスコーナーやふれあい図書室など計17施設で図書館サービスを提供しています。また、平成17年度から民との協働を進め、直営、委託、指定管理、ボランティアによる運営など様々な形態となっているため、今後の運営方式について改めて考える時期を迎えています。サービス面では、平成18年度の新図書館システム稼動、19年度の利用者用インターネットパソコン設置など情報化の推進、地域の課題解決、区民の自立を支援するサービスの提供などを進めました。
	事業に対する住民の意見(事業に対する期待・要望・苦情など)	より充実した電子情報・電子書籍等の提供など情報化の進展による新たなサービス導入の要望や、駅前図書コーナーの充実など図書資料の貸出・返却の拠点となるような窓口に関する意見のほか、地域の課題解決・区民の自立支援に役立つ図書館としての資料の充実などについて要望が寄せられています。
	今後の予測	地域の課題解決や区民の自立支援といった「生涯現役の地域社会を支える図書館」への期待が一層高まっています。また、区民のIT機器利用が高まり、デジタル情報の提供サービスを充実させるよう要望が増えていくと考えられます。こうした中で、区立図書館に求められる役割も「情報の蓄積と提供」へと変化していくと考えられます。 平成24年度中に区立小・中学校全校に学校司書が配置されることに伴い、学校と図書館との連携による読書活動の推進が期待されます。
評価と課題	民間活力の導入により、効率的な運営が進み、サービスの充実が図られました。職員のレファレンスワーク(資料に関する調査・相談を行うこと。)向上の課題に対しては、杉並資料データベースの作成に着手しました。また、地域大学講座や障害者朗読ボランティア講座を実施し、新たなボランティアの育成・獲得に取り組みました。今後は、研修等、新たなボランティアへの継続的な支援のほか、情報化の進展に対応する取組指針を策定します。	

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 拡充	<input type="radio"/> 現状維持	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止
		II 事業の改善	<input type="radio"/> 事業内容の変更		<input checked="" type="radio"/> 実施方法の変更	
	区立図書館14館構想に基づき、高円寺地域に新たな図書館を設置します。 新たな基本構想・総合計画や教育ビジョンを策定していく中で、改めて大きな視点から図書館の価値を捉え直し、今後の区立図書館の目指すべきサービスの方向性を考えていく必要があると考え、「(仮称)図書館サービス基本方針」を策定することとしました。この検討結果を踏まえて、「区民に役立つ図書館」にふさわしい運営形態を定めていきます。 隔年でボランティア講座を企画し、絶え間のないボランティアの育成に努めるほか、講座修了生に対する研修を実施するなど、継続的な支援に努めます。 また、平成24年度中に策定を予定している図書館における情報化取組指針に基づき、ICタグの導入による利用者サービスの拡大、電子書籍等の導入、地域資料のデジタルアーカイブ化などの課題に対応していきます。					

特記事項	
------	--

平成24年度 杉並区事務事業評価表

事務事業名	社会教育センター維持管理	款	7	項	5	目	2	事業	1	整理番号	536	
担当部課名	教育委員会事務局生涯学習推進課	係名	社会教育センター		連絡先電話番号	4712			昨年度整理番号	550		
(平成23年度担当部課名)		教育委員会事務局社会教育スポーツ課						予算事業区分	既定事業			
事務事業の概要	事業開始	平成	▼	1	年度							<input type="checkbox"/> 主要事業
	対象	<input type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 社会教育センター				根拠法令等	(1) 社会教育法第3条、第5条 (2) 杉並区立社会教育センター条例					
	事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか)	区民の学習の場として、安全で快適に活動できる施設として良好な環境を維持し利用者に提供する。				活動指標名(式)	(1) 施設利用回数 (2)					
	活動内容 (事務事業の内容、やり方、手順)	○利用者に対し、社会教育の学習の場を提供すると同時に、一般区民の利用施設として快適で安全な環境を図るため、修繕を含めた施設の適正な維持及び管理を行う。				成果指標	※(代)=適当な指標がない場合の代替指標					
	成果指標名(1)	稼働率				算定式・指標の説明等	施設利用回数÷施設利用可能回数×100					
	成果指標名(2)					算定式・指標の説明等						
区分		単位	21年度		22年度		23年度		24年度計画	計画(目標値)に対する23年度の達成率 %		
			実績	計画	実績	計画(目標値)	実績					
指標	活動指標(1)	①	回	5191	8606	5351	8606	5684	8606	66.0		
	活動指標(2)	②										
	成果指標(1)	③	%	60.0	100.0	62.0	100.0	66.0	100.0	66.0		
	成果指標(2)	④										
総事業費・コスト把握	事業費	⑤	千円	64,446	68,486	60,955	63,544	60,955	60,785	23年度予算執行率%	95.9	
	(内)投資的経費等	⑥	千円	0	0	0	0	0	0	特記事項		
	(内)委託費	⑦	千円	49,508	49,941	44,804	44,455	43,321	43,336			
	職員数(常勤 非常勤)	⑧	人	0.90 0.00	0.80 0.00	0.90 0.00	0.80 0.00	0.90 0.00	0.80 0.00			
	人件費	(内)常勤職員分(超勤分含)	⑨	千円	7,991	7,136	8,028	7,120	8,010			7,120
		(内)非常勤職員分	⑩	千円	0	0	0	0	0			0
	総事業費⑤+⑨+⑩	⑪	千円	72,437	75,622	68,983	70,664	68,965	67,905			
	単位あたりコスト(⑪-⑥)÷①	⑫	円	13,954	8,787	12,892	8,211	12,133	7,890			
	財源	受益者負担分	⑬	千円	29,396	27,797	28,700	28,207	27,776			28,953
		国からの補助金等	⑭	千円	0	0	0	0	0			0
都からの補助金等		⑮	千円	0	0	0	0	0	0			
その他の補助金等		⑯	千円	0	0	0	0	0	0			
特定財源計(⑬+⑭+⑮+⑯)		⑰	千円	29,396	27,797	28,700	28,207	27,776	28,953			
差引:一般財源(⑰-⑬)		⑱	千円	43,041	47,825	40,283	42,457	41,189	38,952			
受益者負担比率⑬÷⑪		%	40.6	36.8	41.6	39.9	40.3	42.6				

平成24年度 杉並区事務事業評価表

整理番号 536

23年度の事業実施状況	(1) 主な取組み	内 容	規 模	単 位	事業費(千円)
		施設保守管理委託料			
		光熱水費			11,353
		施設維持経費(修繕費、消耗品、使用料)			6,280
		その他 ()			0
	(2) 事業実績	年間契約による定期保守点検や保守点検で指摘を受けていた非常灯用電源バッテリーの一斉交換、常態化しているホール客席の椅子の座面張替えなど、既存設備の不具合の補修を行い安全に区民が利用できるように保守を実施しています。なお、営繕課が、東日本大震災の影響による1階中庭側のガラスサッシの一部(残りは24年度実施予定)等の保守工事も実施しています。			

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	開設後24年目、建物、付帯設備、備品類等の経年変化に対して、修理・修繕、買い替え等で対処療法的な対応が続いています。特に、電気設備や昇降機設備等においては、保守点検業者から、機器等が古くてメンテナンスとして扱うことが困難の申し出もあります。老朽化で修理等対応が必要であるにも関わらず、予算措置が整わず対応できていない案件が増えています。
	事業に対する住民の意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	AV機器等旧式の機種も多く、多様な利用形態に対応できない状況があり、DVD・Blu-RayDiskなどのデジタル機種導入の要望があります。その一方、高齢層の利用者からは従来のカセットデッキなどの利用希望も根強く、修繕等を行うことが困難な場合も出てきています。
	今後の予測	東日本大震災以後、建物に目視できないところの劣化があると考えられるので、緊急の修繕などが生じる可能性があります。また照明設備に関しては、長期的には省エネ設備(LED等)への転換が必要になると予測されます。
評価と課題		竣工以来、20年以上を経て、建物に比べ、耐用年数が短い設備や備品の老朽化が目立ち、不具合が生じています。特に、ホールの照明設備では、保守点検において照明に関する電気設備は現行基準では使用ができない機具や調光機器の老朽化も指摘されています。昇降機にも関わらず制御盤等の老朽化が指摘されています。施設全体についての早急な対応が求められています。さらに、節電やエコ・二酸化炭素排出抑制などに効果のある設備への転換も検討する必要があります。

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業の方向性	● 拡 充	○ 現 状 維 持	○ 縮 小	○ 廃 止
		II 事業の改善	● 事業内容の変更		○ 実施方法の変更	
		竣工が23年以上経過したため、記述のとおり設備・機器も耐用年数を超え老朽化が目立っています。大規模改修への計画化を検討しましたが見送りとなりました。しかしながら、区民に貸し出す施設として、安全性を確保するためには大規模な改修は不可欠のため、今後も計画への計上に努めるとともに、必要な修繕等を複数年度に分割して実施していく工夫などを検討していく必要があります。				

特記事項	
------	--

平成24年度 杉並区事務事業評価表

事務事業名	郷土博物館の維持管理	款	7	項	5	目	2	事業	2	整理番号	537
担当部課名	教育委員会事務局生涯学習推進課	係名	郷土博物館			連絡先電話番号	3317-0841			昨年度整理番号	551
(平成23年度担当部課名)		教育委員会事務局郷土博物館						予算事業区分	既定事業		
事務事業の概要	事業開始	平成	▼	元	年度	<input type="checkbox"/> 主要事業					
	対象	<input checked="" type="checkbox"/> 個人	<input checked="" type="checkbox"/> 世帯	<input checked="" type="checkbox"/> 団体	<input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 内部管理	根拠 (1) 博物館法				
	博物館利用者						等 (2) 杉並区立郷土博物館条例				
	事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか)						活動指標名(式)				
○歴史的・文化的資料を適切な状態で保存・展示し、利用者が安全かつ快適に利用できる環境を維持する。						(1) 開館日数					
						(2)					
活動内容 (事務事業の内容、やり方、手順)						成果指標 ※(代)=適当な指標がない場合の代替指標					
○本館、分館、西田小学校郷土資料展示室、松ノ木遺跡、館外収蔵庫5箇所の維持管理						成果指標名(1) 入館者数					
						算定式・指標の説明等					
						成果指標名(2) アンケート結果					
						算定式・指標の説明等 満足を3、普通を2、不満を1とした平均点					
区分		単位	21年度		22年度		23年度		24年度	計画(目標値)に対する23年度の達成率 %	
			実績	計画	実績	計画(目標値)	実績	計画			
指標	活動指標(1)	① 日	295	294	292	295	282	294	95.6		
	活動指標(2)	②									
	成果指標(1)	③ 人	27,741	30,000	25,222	30,000	23,429	30,000	78.1		
	成果指標(2)	④ 点	2.63	2.80	2.58	2.80	2.59	2.80	92.5		
総事業費・コスト把握	事業費	⑤ 千円	31,029	36,266	31,891	34,908	31,530	34,967	23年度予算執行率% 90.3		
	(内) 投資的経費等	⑥ 千円	1,568	1,727	1,237	1,727	1,223	1,500	特記事項		
	(内) 委託費	⑦ 千円	22,178	22,721	22,553	22,399	21,342	23,333			
	職員数(常勤 非常勤)	⑧ 人	1.70 0.00	1.50 0.00	1.68 0.00	1.00 0.00	1.01 0.00	1.00 0.00			
	人件費	(内) 常勤職員分(超勤分含)	⑨ 千円	15,094	13,380	14,986	8,900	8,989		8,900	
		(内) 非常勤職員分	⑩ 千円	0	0	0	0	0		0	
	総事業費⑤+⑨+⑩	⑪ 千円	46,123	49,646	46,877	43,808	40,519	43,867			
	単位あたりコスト(⑪-⑥)÷①	⑫ 円	151,034	162,990	156,301	142,647	139,348	144,105			
	財源	受益者負担分	⑬ 千円	30	33	32	31	29		31	
		国からの補助金等	⑭ 千円	0	0	0	0	0		0	
都からの補助金等		⑮ 千円	0	0	0	0	0	0			
その他の補助金等		⑯ 千円	0	0	0	0	0	0			
特定財源計(⑬+⑭+⑮+⑯)		⑰ 千円	30	33	32	31	29	31			
差引: 一般財源(⑰-⑬)		⑱ 千円	46,093	49,613	46,845	43,777	40,490	43,836			
受益者負担比率⑬÷⑪	⑳ %	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1				

平成24年度 杉並区事務事業評価表

整理番号 537

23年度の事業実施状況	(1) 主な取組み	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		施設保守管理委託	2	館	21,892
		光熱水費	2	館	6,471
		施設維持管理	2	館	3,167
		その他 ()			0
(2) 事業実績		<p>・本館及び分館等を適正に維持管理するため、建物の保守管理及び不良箇所の修繕並びに営繕課による空調機器の入替工事等を行いました。</p> <p>・東日本大震災発生に伴う電力不足に対応するため、7月～9月に13日間の臨時休館を実施しました。</p>			

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	<p>・収集・保管資料数の増加:平成元年度末108,045点、平成21年度末136,377点、平成22年度末137,040点、平成23年度末137,683点。</p> <p>・本館収蔵庫での保管が困難となり、学校(5校)の教室を保管場所としています。</p>
	事業に対する住民の意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	<p>・アンケート等でも、交通の利便性についての指摘が多くあります。</p>
	今後の予測	<p>・開設から23年以上が経過し、施設の老朽化による修繕費等の増加が見込まれます。</p> <p>・博物館活動の成果である収蔵資料数の増加により、今後さらにその保管場所の確保が必要となります。</p>
評価と課題		<p>職員による施設の定期点検等により、故障箇所の早期発見・早期対策による修繕を計画的に行い、開館以来更新のされていなかった空調機器については営繕課による入替工事を実施しました。また、収蔵資料については、資料の収集・廃棄を適正に進めるための基準を作成し、資料の点検、保存状況の確認を行い、収蔵スペースを有効に活用するなど、自助努力や工夫による維持管理に努めました。</p>

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 拡 充 <input type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 縮 小 <input type="radio"/> 廃 止
	II 事業の改善		<input type="radio"/> 事業内容の変更 <input type="radio"/> 実施方法の変更
<p>開館以来23年が経過し、施設の老朽化が顕著となり、今後は、中長期的な観点からの修繕計画を作成する必要があります。また、博物館活動を行っていくうえで、資料の収集・保存は欠くことのできない重要な要素であり、保存に十分適しているとはいえない学校収蔵庫に替えて、長期的な保存が可能な収蔵庫の整備が必要です。そのため、既存施設の改築や廃止に併せて、収蔵庫の整備に向けた協議を関係機関と行っていきます。</p>			

特記事項	
------	--

平成24年度 杉並区事務事業評価表

事務事業名		図書館施設維持管理		款	7	項	5	目	2	事業	3	整理番号	538	
担当部課名		中央図書館		係名	管理係			連絡先電話番号	4715		昨年度整理番号	552		
(平成23年度担当部課名)		中央図書館					予算事業区分	既定事業						
事務事業の概要	事業開始	昭和	▼	27	年度									<input type="checkbox"/> 主要事業
	対象	<input checked="" type="checkbox"/> 個人	<input checked="" type="checkbox"/> 世帯	<input checked="" type="checkbox"/> 団体	<input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 内部管理	根拠法令等		(1) 図書館法 (2) 地方自治法第2条第2項					
	事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか)	○ 図書館利用者等に、安全で快適な施設利用環境を提供する。					活動指標名(式)		(1) 開館日数(全館累計) (2) 利用者数(全館累計)					
	活動内容 (事務事業の内容、やり方、手順)	○ 施設の適正な維持管理を行い、図書館利用者等の安全性及び利便性の向上を図る。					成果指標		※(代)=適当な指標がない場合の代替指標					
				成果指標名(1)		1日あたりの維持管理経費		算定式・指標の説明等		維持管理経費÷開館日数				
				成果指標名(2)		利用者1人あたりの維持管理経費		算定式・指標の説明等		維持管理経費÷利用者数(入館者数)				
区分		単位	21年度		22年度		23年度		24年度	計画(目標値)に対する23年度の達成率 %				
			実績	計画	実績	計画(目標値)	実績	計画						
指標	活動指標(1)	①	日	4,331	4,298	4,314	4,203	4,221	4,326	100.4				
	活動指標(2)	②	人	2,938,287	3,027,000	2,973,672	3,000,000	2,906,337	2,979,000	96.9				
	成果指標(1)	③	円	43,868	51,000	30,861	33,243	29,356	320,906	88.3				
	成果指標(2)	④	円	65	70	48	47	43	48	91.5				
総事業費・コスト把握	事業費	⑤	千円	189,993	143,283	133,134	139,719	123,913	142,352	23年度予算執行率% 88.7				
	(内)投資的経費等	⑥	千円	1,814	0	5,045	0	775	0	特記事項 節電対策のため、4月1箇所月間は全館午後5時閉館、7月から9月は地域館において週1回臨時休館を実施した。				
	(内)委託費	⑦	千円	116,125	85,429	79,238	80,597	74,098	84,779					
	職員数(常勤 非常勤)	⑧	人	3.73 0.50	4.00 1.00	4.22 1.00	5.00 0.00	5.19 0.00	5.00 0.00					
	人件費	(内)常勤職員分(超勤分含)	⑨	千円	33,119	35,680	37,642	44,500	46,191		44,500			
		(内)非常勤職員分	⑩	千円	1,397	2,950	2,950	0	0		0			
	総事業費⑤+⑨+⑩	⑪	千円	224,509	181,913	173,726	184,219	170,104	186,852					
	単位あたりコスト(⑪-⑥)÷①	⑫	円	51,419	42,325	39,101	43,830	40,116	43,193					
	財源	受益者負担分	⑬	千円	0	0	0	0	0		0			
		国からの補助金等	⑭	千円	0	0	0	0	0		0			
		都からの補助金等	⑮	千円	0	0	0	0	0		0			
その他の補助金等		⑯	千円	0	0	0	0	0	0					
特定財源計(⑬+⑭+⑮+⑯)		⑰	千円	0	0	0	0	0	0					
差引:一般財源(⑪-⑰)		⑱	千円	224,509	181,913	173,726	184,219	170,104	186,852					
受益者負担比率⑬÷⑪	⑲	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						

平成24年度 杉並区事務事業評価表

整理番号 538

23年度の事業実施状況	(1) 主な取組み	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		設備保守管理委託	7	館	72,825
		光熱水費	7	館	38,682
		施設維持管理費	7	館	9,931
		事務用機器類	7	館	2,475
		その他 ()			0
	(2) 事業実績	中央図書館及び地域図書館における光熱水費の支払い業務のほか、清掃業務委託や警備委託などの施設管理業務、事務機器等の賃借、施設の修繕などを実施しています。23年度は、全図書館において計画的な節電を実施し、電気使用量の節減に大きな成果を上げました。なお、22年度から新たに4館が指定管理に移行されたため、年間維持管理経費が少なくなっています。			

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	昭和25年に杉並区立杉並図書館として発足以後、昭和40年に現在の永福図書館、柿木図書館が建設され、昭和57年開館の中央図書館を経て、最も新しい平成19年建設の今川図書館まで区内には13の施設があります。これまでの計画に基づく14館構想最後の館は、高円寺、和田地区に建設を予定しています。なお、平成17年度からは、委託化や指定管理者制度の導入を進めましたが、指定管理者による運営に移行した地域図書館の施設維持管理業務は、指定管理者自らが実施します。
	事業に対する住民の意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	施設の老朽化による施設の使い勝手の悪さに関する要望や、閲覧席・学習室等の設置希望、バリアフリーの観点からの昇降機や段差の解消、空調機やOA機器等の機械設備・建物設備に関する改善要望が出されています。
	今後の予測	既存の13館の中で、比較的早期に建設された、永福、柿木の2館(昭和40年築)、宮前図書館(昭和47年築)では、建物の老朽化が進んでいます。また、中央図書館においても、建設から30年が経過し、設備面で毎年修理費等の経費がかさむようになってきましたので、今後、老朽化した図書館の大規模改修・改築が必要となる場合が想定されます。
	評価と課題	平成22年度杉並区図書館経営評価報告書では、施設維持管理に関して、安全管理、衛生管理及び環境基準の遵守の項目について、全館がAの評価結果を得ました。また、平成23年度に実施した利用者満足度調査結果においても「清潔で、利用しやすいか」の質問に対して、良い、やや良いを合わせて94.5%と高い評価を得ています。今後は、あらゆる世代の利用に対応できるよう、トイレの洋式化を進めるほか、限られたスペースの有効活用を図り、授乳室等の確保にも取り組む必要があります。

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業の方向性	<input type="radio"/> 拡 充	<input checked="" type="radio"/> 現状維持	<input type="radio"/> 縮 小	<input type="radio"/> 廃 止
		II 事業の改善	<input type="radio"/> 事業内容の変更	<input type="radio"/> 実施方法の変更		
	14館構想の最後の1館である、高円寺・和田地区の図書館建設の早期実現を目指すと共に、既存の13館のうち築年数が40年以上となる永福、柿木、宮前図書館については改築を計画し、中央図書館についても設備等の老朽化が進んでいるため、3年を目処に大規模改修を行い、より利便性のある図書館となるよう環境整備に努めていきます。 また、地震等の災害に備えて、引き続き消防設備、防災設備の管理に万全を期していくとともに、段差の解消等、施設内のバリアフリー化を図ります。更に、環境に配慮した施設管理の実施のため、省エネ型の照明器具の使用や空調設定温度の夏場28度、冬場19度の遵守の徹底など、光熱水費の削減を目指し、環境にやさしい図書館運営に努めます。					

特記事項	
------	--